

DENSHI-ONGAKU NOW! VOL.5 IN OSAKA

電子音楽なう!

「電子音楽なう」シリーズは、"なかなか普段のメディアでは触れられることが少ない電子音楽。広く客層の裾野を広げる意味で、気軽にマジメな電子音楽/コンピュータ音楽に触れられることを目指すライブイベント"です。

vol.5 in 大阪

成木 理香

The Sealed Forest II for flute and electroacoustics
(フルート: 丹下 聡子)

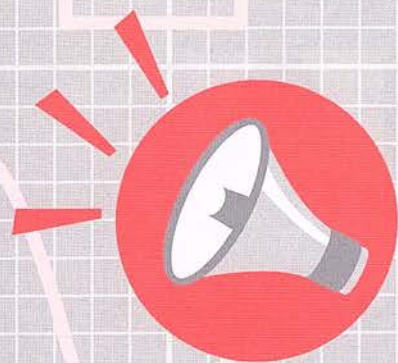
Molecule Plane
Acousticophilia

門脇 治
オーロラ #2.5

RAKASU PROJECT.
見えない音

石上 和也 + かつふじたまこ + 泉川 獅道
Wabient Sabient 一侘び縁と 寂び縁と一 ver0.0

由雄 正恒
Air No.3 for Leap-motion and Max (2016)



2016年3月18日 [金]

18:30 開場 19:00 開演

料 金: 2,000 円

会 場: Namba BEARS

企画構成: 石上 和也、かつふじたまこ、泉川 獅道、由雄 正恒

主催: 日本電子音楽協会

お問合せ: 石上 和也 mail@neus318.com

Namba BEARS info@namba-bears.main.jp / 06-6649-5564



成本 理香 Rica NARIMOTO

愛知県立芸術大学音楽学部作曲専攻卒業、桑原賞受賞。同大学院修士課程、博士後期課程修了。博士(音楽)。第29回入野賞受賞、Iron Composer Competition(アメリカ)第3位、大桑文化奨励賞受賞など。アメリカのアジアン・カルチュラル・カウンシルより招聘を受けて2011年渡米、ニューヨークに居住しアメリカの現代音楽と現代芸術に関する調査・研究活動を行い、滞在の終盤には自作自演を含む個展を行い好評を博した。愛知県立芸術大学、金城学院大学、金沢大学各講師。名古屋市立大学芸術工学部研究員。



石上 和也 Kazuya ISHIGAMI

1972年大阪生まれ。幼児期からテープレコーダーで遊びコンクレート作品を作りはじめ。電子音響音楽を学ぶため1990年に大阪芸術大学音楽学科音楽工学コースへと進学。1994年から音楽プログラミング言語 Max を使用したソロライブを展開。1997年にフランス/GRMにて作品制作を行う。DR ドイツ国営放送、WDR ドイツ国営放送、ICMC2015 等で作品が上演される。大阪芸術大学通信教育部/同志社女子大学/京都精華大学/花園大学/神戸芸術工科大学大学院 非常勤講師。
*プロフィール写真撮影: 高津 吉則



丹下 聡子 Satoko TANGE

愛知県立芸術大学音楽学部音楽科楽器専攻打楽器コース(フルート)卒業。同大学院音楽研究科修士課程、博士後期課程修了。博士号(音楽)取得。第7回ながのーアスペン音楽祭にて音楽賞受賞。翌年、奨学金を得てアメリカ・コロラド州アスペン音楽祭に参加し、Young Artist Concert に出演。現在、愛知県立芸術大学講師。アンサンブル・カラヴィンカ代表、音楽クラコ座メンバー。



かつふじたまこ Tamako KATSUFUJI

大阪生まれ。音作家。90年代半ばより声や言葉を用いた音作品の制作を始める。2000年夏、フランス国立視聴覚研究所 INA-GRM にて電子音楽の作曲を学ぶ。以降、ダンス、映像、朗読等と音との合作企画『Full Space』を展開する他、微細な音で綴られる作品の数々は海外のフェスティバルでも度々上演され、好評を得ている。一方、鍵盤ハーモニカや日用品などを用いた即興演奏でも独創的な音世界を創り出している。
<http://hello-tsukineco.jimdo.com>



Molecule Plane

京都府出身の音楽家 Yuki Ohtsuka による音色と音響の探求に特化したプロジェクト。これまでにアコースモニウムによる演奏の他、インターネット等で作品を発表。アコースマティック作家としては、CCMC2012 で MOTUS 賞を受賞し、近年では欧州でも作品が上演されている。その他、別名義「Route09」や ima とのユニット「A.N.R.i」、またマスタリング・エンジニアとしても活動中。

<http://push-it-studio.tumblr.com/>

*プロフィール写真撮影: 大久保雅基



泉川 獅道 Shido IZUKAWA

幼少より音楽教室に通い西洋音楽を中心に30年ほど音楽を学ぶ。大阪芸術大学大学院を電子音響音楽作品と尺八古典本曲の研究論文によって修了(芸術学博士)。以後虚無僧尺八の吹禅修行を続けながら、奈良の古刹當麻寺にて密教声明を学び、月例の音楽法要の中で美のものさしを磨く。2008年アメリカ人尺八奏者と多国籍尺八デュオ「黒船」を結成。以来 APEC や林英哲師の海外公演等で独特の活動を展開中。東洋音楽学会、日本電子音楽協会他会員。大阪芸術大学、神戸山手短期大学非常勤講師。



門脇 治 Osamu KADOWAKI

1964年、宮城県塩竈市生まれ。宮城教育大学および同大学院にて作曲を故本間雅夫・吉川和夫の両氏に師事。電子音楽に関してはほぼ独学。電子音響を含む作品としては、日本電子音楽協会定期を含む国内以外にも、韓国、ポルトガルなどで上演。平成10年度宮城県芸術選奨新人賞、平成15年度文化庁舞台芸術創作奨励賞受賞。現在、日本電子音楽協会、日本現代音楽協会、日本作曲家協議会、宮城県芸術協会会員。



由雄 正恒 Masatsune YOSHIO

神戸出身。作曲家、メディアマスター No.75。コンピュータによる芸術作品の創作を専門とし、アルゴリズムック・コンポジション、音響合成、ライブエレクトロニクス、メディア表現を題材にした創作研究を行っている。電子音響作品は、国内外において演奏される。日本作曲家協議会、先端芸術音楽創作学会、日本音楽即興学会、情報処理学会音楽情報科学研究会会員、日本電子音楽協会理事、昭和音楽大学准教授。



RAKASU PROJECT. (落 兎子)

電子音響音楽から商業音楽制作、各種センサーを使用したパフォーマンスや、サウンドインスタレーション制作など幅広く手がけている。土佐正道、有馬純寿、フジタダイスケ、酒井康志、寺内大輔、船田奇岑、西田彩、石上和也等、多数のアーティストと共演。現在、京都精華大学ポピュラーカルチャー学部音楽コース 特任准教授。同志社女子大学、帝塚山学院大学 非常勤講師。

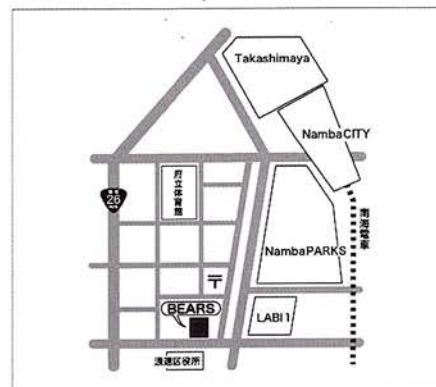
Namba BEARS

〒556-0011 大阪府大阪市浪速区難波中3-1-4-5 新日本難波ビル B1

TEL&FAX: 06-6649-5564

URL: <http://namba-bears.main.jp>

MAIL: info@namba-bears.main.jp



電子音楽なう！ vol.5 in 大阪
DENSHI-ONGAKU NOW! VOL.5 IN OSAKA

2016年3月18日（金）18:30 開場 19:00 開演 @Namba BEARS

企画構成： 石上 和也、かつふじ たまこ、泉川 獅道、由雄 正恒
主 催： 日本電子音楽協会

成本 理香

The Sealed Forest II for flute and electroacoustics

フルート演奏：丹下 聡子

作品解説

フルート奏者の丹下聡子さんは私のフルートの作品のほとんどを初演してくれており、また長年の友人でもある。この曲は、彼女のフルートの音を同時に複数聴いてみたいなと思ったのがきっかけで作曲した。事前にいくつかのパターンを吹いてもらって録音し、それらを用いて2チャンネルのシンプルな電子音響パートを制作した。

中学生の頃に読んだ氷室冴子の少女小説『シンデレラ迷宮』で、登場人物の1人が「森」とは「自分を守ってくれる場所」と語る場面があり、それをとても気に入っていたので、一時期「森」をテーマに作曲した作品を丹下さんに沢山演奏してもらった。それを思い出して久しぶりに森シリーズで書いてみた。今回は「森」以外に、私が実際に「ここにいれば安心。ここから出たくない」と思った場所も作品に登場させた。録音、制作等には、愛知県立芸術大学の電子音楽スタジオ（録音室）と名古屋市立大学芸術工学部の音響デザイン室を使用した。

成本 理香 Rica NARIMOTO

愛知県立芸術大学音楽学部作曲専攻卒業、桑原賞受賞。同大学院修士課程、博士後期課程修了。博士（音楽）。第29回入野賞受賞、Iron Composer Competition（アメリカ）第3位、大桑文化奨励賞受賞など。アメリカのアジアン・カルチュラル・カウンシルより招聘を受けて2011年渡米、ニューヨークに居住しアメリカの現代音楽と現代芸術に関する調査・研究活動を行い、滞在の終盤には自作自演を含む個展を行い好評を博した。愛知県立芸術大学、金城学院大学、金沢大学各講師。名古屋市立大学芸術工学部研究員。

丹下 聡子 Satoko TANGE

愛知県立芸術大学音楽学部音楽科器楽専攻管打楽器コース（フルート）卒業。同大学院音楽研究科修士課程、博士後期課程修了。博士号（音楽）取得。第7回ながのーアスペン音楽祭にて音楽賞受賞。翌年、奨学金を得てアメリカ・コロラド州アスペン音楽祭に参加し、Young Artist Concertに出演。現在、愛知県立芸術大学講師。アンサンブル・カラヴィンカ代表、音楽クラコ座メンバー。

RAKASU PROJECT.

見えない音

作品解説

今回は、昔の黒電話の音声録音用マイク「テレフォンピックアップ」を使い、様々な電子機器・電気器具類から発せられる電磁波ノイズを拾い、エフェクタ等で加工しながら即興演奏をします。本当は聴こえているのかもしれないけれど認識することはできない、しかしそこに確かに存在する「音」を探りあてていく試みです。

RAKASU PROJECT. (落 晃子)

電子音響音楽から商業音楽制作、各種センサーを使用したパフォーマンスや、サウンドインスタレーション制作など幅広く手がけている。

土佐正道、有馬純寿、フジタダイスケ、酒井康志、寺内大輔、船田奇岑、西田彩、石上和也等、多数のアーティストと共演。現在、京都精華大学ポピュラーカルチャー学部音楽コース 特任准教授。同志社女子大学、帝塚山学院大学 非常勤講師。

由雄正恒

Air No.3 for Leap-motion and Max (2016)

作品解説

楽器を演奏することは、どこかしら身体を接触させ、個体からの感触と共に音を放出するものだが、もし触れることができずに音を奏でると、どういうことになるのだろうか？

の、第3番。

決して触れることができない。触れてはいけない。

聴覚に頼り、放出された音波を操る。

非接触のロマン。

由雄 正恒 Masatsune YOSHIO

神戸出身。作曲家、メディアマスターNo.75。コンピュータによる芸術作品の創作を専門とし、アルゴリズムック・コンポジション、音響合成、ライブエレクトロニクス、メディア表現を題材にした創作研究を行っている。電子音響作品は、国内外（ICMC-国際コンピュータ音楽会議、Contemporary Computer Music Concert, FUJI acousmatic music festival, MUSICACOUSTICA-BEIJIN, Festival FUTURA 等）において演奏される。昭和音楽大学作曲学科、IAMAS アートアンドメディア・ラボ科を卒業。三輪真弘に師事。MOTUS 夏期アトリエ・パリ 2006 にてドウニ・デュフル氏などからアコースマティック音楽作曲法とアコースモニウム演奏法の指導を受ける。日本作曲家協議会、先端芸術音楽創作学会、日本音楽即興学会、情報処理学会音楽情報科学研究会会員、日本電子音楽協会理事、昭和音楽大学准教授。

石上 和也 + かつふじ たまこ + 泉川 獅道

Wabient Sabient —侘び縁と 寂び縁と— ver0.0

作品解説

石上と泉川、石上とかつふじのセッションは、これまでも何度か行われたが、三つ巴での演奏は初の試みである。侘び(Wabi)担当の泉川が虚無僧尺八を奏で、寂び(Sabi)担当のかつふじが鍵盤ハーモニカで語り出し、縁(ent)担当の石上が電子音響で包み込む。

*タイトルの wabient sabient という言葉は、石上が 10 年程前にアンビエント・ノイズ作品 CD シリーズのタイトルとして考案したものである。結局、CD シリーズは制作されてはいないが、10 年を経てようやく作品のタイトルとして使用しても良いのではないかと思います、今回 ver0.0 で始動することにした。(文責：石上和也)

石上 和也 Kazuya ISHIGAMI

1972 年大阪生まれ。幼児期からテープレコーダーで遊びコンクリート作品を作り始める。電子音響音楽を学ぶため 1990 年に大阪芸術大学音楽学科音楽工学コースへと進学。1994 年から音楽プログラミング言語 Max を使用したソロライブを展開。1997 年にフランス GRM にて作品制作をおこなう。DR ドイツ国営放送、WDR ドイツ国営放送、ICMC2015 等で作品が上演される。大阪芸術大学通信教育部／同志社女子大学／京都精華大学／花園大学／神戸芸術工科大学大学院 非常勤講師。

かつふじ たまこ Tamako KATSUFUJI

大阪生まれ。音作家。90 年代半ばより声や言葉を用いた音作品の制作を始める。2000 年夏、フランス国立視聴覚研究所 INA-GRM にて電子音楽の作曲を学ぶ。以降、ダンス、映像、朗読等と音との合作企画『Full Space』を展開する他、微細な音で綴られる作品の数々は海外のフェスティバルでも度々上演され、好評を得ている。一方、鍵盤ハーモニカや日用品などを用いた即興演奏でも独創的な音世界を創り出している。

<http://hello-tsukineco.jimdo.com>

泉川 獅道 Shido IZUKAWA

幼少より音楽教室に通い西洋音楽を中心に 30 年ほど音楽を学ぶ。大阪芸術大学大学院を電子音響音楽作品と尺八古典本曲の研究論文によって修了(芸術学博士)。以後虚無僧尺八の吹禅修行を続けながら、奈良の古刹當麻寺にて密教声明を学び、月例の音楽法要の中で美のものさしを磨く。2008 年アメリカ人尺八奏者と多国籍尺八デュオ「黒船」を結成。以来 APEC や林英哲師の海外公演等で独特の活動を展開中。東洋音楽学会、日本電子音楽協会他会員。大阪芸術大学、神戸山手短期大学非常勤講師。

門脇 治

オーロラ #2.5

作品解説

前作に位置づけられる「オーロラ」は、ヴァイオリン独奏のためにハーモニックスを多用した作品であった。弦楽器のそれとは違って、ピアノのハーモニックスは影のように、いわゆる残響音であり単独で鳴らすことはできないだけでなく、押さえる鍵盤と打弦する音の組合せは数えきれない。デジタル技術の向上により、ピアノ音源はほぼ完璧に生音を再現するに至っているが、ハーモニックスの音響発生をシミュレートするのは未だ容易ではないと思われる。本作品では電子デバイスによりハーモニックス音をサンプリングし演奏するということを試みる。

ピアノ演奏を伴う形でオーロラ第2番をこの2月に発表し、今回の第2.5番はピアノを伴わない版となる。

門脇 治 Osamu KADOWAKI

1964年、宮城県塩竈市生まれ。宮城教育大学および同大学院にて作曲を故本間雅夫・吉川和夫の両氏に師事。電子音楽に関してはほぼ独学。

電子音響を含む作品としては、日本電子音楽協会定期を含む国内以外にも、韓国、ポルトガルなどで上演。

平成10年度宮城県芸術選奨新人賞、平成15年度文化庁舞台芸術創作奨励賞受賞。

現在、日本電子音楽協会、日本現代音楽協会、日本作曲家協議会、宮城県芸術協会会員。

Molecule Plane Acousticophilia

作品解説

持続するに耐える強度のある音色とそこから構成される複雑な音響により生じる緊張感、或いは空間に対する支配感や聴き手の聴覚を縛り付ける暴力性を内包したものであると同時に、様々な音色や音響のレイヤーを万華鏡の様に展開させながら（オーディオ的に正しいかどうかは別として）聴きにくさや不快感を排除する繊細さも併せ持たせるには何をどう鳴らせば良いのか、そしてそれがただのドローンやアンビエントではない更に別の何かとして成立するのかというそれらの点に基づいて、かつてのミュージック・コンクレートが理想として抱いた「無限の音色のパレット」への憧れをこの 21 世紀に高純度で培養しアップデートを試みたものが Molecule Plane であり、今日のパフォーマンスでもそれは何ら変わりはない。無論、それが音色や音響による偏愛 (= Acousticophilia) と言ってしまうえばそれまでだが（事実その通りでもあるのだが）。

Molecule Plane

京都府出身の音楽家 Yuki Ohtsuka が 2014 年より展開している音色と音響の探求に特化したプロジェクト。これまでに CCMC でのアコースモニウムによる演奏の他、bandcamp で配信された実験音楽コンピレーション「VA experimenta vol1」や自身の SoundCloud 等で作品を発表。アコースマティック作家としては、CCMC 2012 で MOTUS 賞を受賞し、近年ではヨーロッパのコンサートやラジオ放送でも作品が取り上げられている。また、「Route09」名義でビート・ミュージック、アンビエント、ノイズ等のコンピレーション・アルバムへの参加やクラブ・イベントに多数出演しているほか、2012 年には ima とのユニット「A. N. R. i.」を結成し、shrine.jp より 1st フルアルバムをリリース。その他、企業への楽曲・効果音提供、マスタリング・エンジニアなど活動は多岐に渡っている。<http://push-it-studio.tumblr.com/>